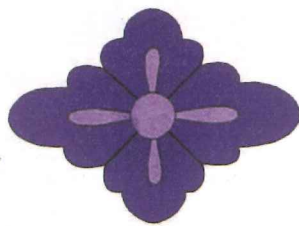




菩提樹

佛さまに育てられる年輪



編集・発行
正法寺

山口市江崎2710

TEL

083-989-2213

FAX

083-989-5339

第15号 平成29年4月発行

うけつぐ伝灯 伝えるよろこび

『第25代専如門主伝灯奉告法要スローガン』



昨年十月一日より本年五月三十一日までの間、ご本山本願寺では、伝灯奉告法要が厳修されています。浄土真宗のみ教えが、親鸞聖人から数えて第二十五代となる専如御門主に伝えられたことを仏祖に告げていく法要が、伝灯奉告法要です。この法要は、宗門の新しい時代が幕開けしたことを意味するのと同様に、親鸞聖人が開かれた浄土真宗のみ教えが、二十四人の御門主の時代を途切れることなく伝えられてきたことをも意味しています。

親鸞聖人の時代は、平家が滅亡し、鎌倉幕府が日本の実権を握るようになっていく時代の転換期であり、後に乱世と評価される時代でした。異常気象やそれによる大飢饉、また、大地震や度重なる戦争によって、人の命が、いとも簡単に死んでいった時代です。人は、無数に横たわる骸を前にして、自分が生まれてきたことの意味や死んでいくことの意味を否応なく考えたはずです。そんな中で、親鸞聖人が歩まれたお念仏のみ教えが、多くの人々に安らぎを与え、救いをもたらしていったのです。

約七五〇年の間、このみ教えは、移り変わる時代の中で、次代へと伝えられ続けてきました。それは、このみ教えが、どの時代に生きる人をも支え導き続けてきたことを物語っています。いつの時代にあっても、人は、掛け替えない生を生き、掛け替えない死を死んでいきます。人が抱えていく命に関する根本的な不安や悩みは、変わることはありません。

過疎化や少子高齢化、家族制度の崩壊など、み教えがこれまで以上に伝わりにくい時代になってきました。しかし、今を生きている私どもが、先人の方の想いを無駄にするようなことがあってはなりません。多くの先人の方がそうであったように、一人ひとりが、正しいみ教えをいただく中で、自分に恵まれた掛け替えない生と死を有り難いものとして味わい、深い命の喜びを後世の子や孫に伝えていかなければなりません。

二十五回目の新しい時代が幕を開けました。浄土真宗のお寺は、この私のみ教えをいただく場所です。ご法座にお参りをし、お聴聞させていただくことを、いよいよ大切にさせていただきます。ましよう。

(正法寺住職)

奉告法要参拝 — 新しい時代の幕開けに感動 —

うけつぎ伝えるよろこびをともに

総代会長 久保 實

十月六日(木)正法寺ご門徒三十名の皆さんと、山口南組団体参拝団としてご本山に参拝。よろこびの法要に会うことができました。

御影堂での感動を忘れない

莊嚴な楽の音と、満堂に響き渡るお正信偈のおつとめ。お念仏をよろこび、この法要に遇えたことをよろこぶ全国の仲間の顔は、みんな輝いて見えました。

お若い専如ご門主のきりつと結ばれた口元は、宗祖親鸞聖人以来、絶えることなく続くお念仏のみ教えを受け継ぎ、一人でも多くの人に伝えていこうという決意とそれのよろこびを語っていて、感動を覚えました。

正法寺様で「うけつぐよろこび」を

「正法寺様の門徒であってよかった」—今、誰もが信頼する真信ご住職と、ご住職を支えて忙しくされている坊守様、五百年の法灯が息づく正法寺様でお育てをいただき私どもは、幸せな門徒だと思います。

五百年の歴史の中で、代々のご住職、坊守様、心あるたくさんのご門徒の方々が、平成の世でお念仏に遇わせていただく私どものために、あたたかい地域のつながりと聞法の道場を残してくださっています。

本堂には、昭和三十一年の大火による焼失からわずか四年後の落慶まで、当時のご門徒の、極寒の中、重誓偈となえつつ歩まれた托鉢行脚の尊い歩みが刻まれています。それは、後の私たちへの「お念仏をよろこべよ」という大きな願いが込められた贈り物だと思います。

◆伝灯奉告法要団参に参加して

後寺内 有田 裕

第二十五代専如ご門主が法統の継承を、阿弥陀如来と親鸞聖人の御前に奉告される法要に、昨秋十月六日山口南組の皆様と本願寺に参詣しました。法要は、阿弥陀堂・御影堂が一体となって「奉讃伝灯作法」により厳修されましたが「正信偈」のおつとめの途中で、ご門主と前門さまが、両堂を入れ替わられるなど、驚きと感動を受けたことでした。法要後は、ご門主ご夫妻・お子様方、前門さまご夫妻が、一緒に登場され「お言葉」をいただき、心温まる「伝灯のつどい」が催されました。八百年に及ぶ親鸞聖人の「み教え」が確かなものと受け継がれた、ご勝縁に遇えて、お念佛の大切さを、しっかりと伝えて参らねばと、心を新たにしましたことでもあります。



◆ご本山への初参り

前寺内 松井 英夫

第二十五代専如門主伝灯奉告法要へ家内と参加させていただきました。ご本山へ数珠を携えて門をくぐるのは初めてです。立派なお堂が立ち並び全国から多勢の門徒の方が集い、新旧ご門主様ご家族と宗門の新しい出発をお祝いする機会に参加できたことを有難く思っています。最近では天皇陛下の生前退位の問題が報じられています。ご本山ではその習わしが古くから引継がれ門徒の前で披露されるのは素晴らしいことだと痛感しています。一泊する琵琶湖畔の宿の超高層からの眺望は格別なものでした。

これからもみ教えに従って正しく生き抜くことを念じています。



第25代専如門主伝灯



まさに五百年、正法寺様の法灯が継承され、多くの先人たちの願いの中で、今私たちが生かされてあること、ありがとうございました、かみしめたいと思います。

私のよろこびを子や孫に

お念仏のみ教えは、ご門徒一人ひとりによって引き継がれてきました。親の背中を子がたどり、そのまた背中は孫が踏んで歩いてきました。今、生活のありようが変わり、直接背中を見続けることは難しくなつたと言われますが、やっぱり、親の背中が語るものは伝わっていくものだと思います。

正法寺様での数多くの法座や行事は、私のために用意されています。まずは、私がお念仏をよろこぶ。よろこべてこそ、後に伝わる。

—このたび、御影堂で出遇えた感動が、改めてこのように私に思わせてくれました。

◆伝灯奉告法要団参に参加して

深溝 岩脇 幸子

「伝灯奉告法要」のご勝縁に遇わせて頂けるということで、主人と共に参拝させて頂くことができました。

御影堂の前方の席で今まで耳にしたことのない雅楽が荘厳に奏でられる中での法要、とてもありがたく感動しました。その後の「伝灯のつどい」では、ご門主様ご家族、前門様ご夫妻のこやかなお顔、お姿を間近に接することができうれしく思いました。

作品展書道の部で最優秀賞を頂かれた新発意様の作品を見つけカメラに収めました。お裏方様、敬さまに手を振ってのお見送りを受けたこともありがたかったですね。

ホテルでの夕食時には、組内の友達とも話すことができ、充実した団体参拝となりました。ありがとうございました。



◆伝灯奉告法要に参拝して

前寺内 石田 和代

十月六日、山口南組の皆様と伝灯奉告法要に参拝いたしました。

私達は御影堂に案内され、十四時から法要を静かに待ちました。阿弥陀堂での法要が始まり、それをモニターで拝見していると、ご門主様が御影堂にもお見えになり、一緒にお念仏を申しました。

十五時から伝灯のつどいがあり、大谷宗家が入堂されました。前門主ご夫妻、専如門主ご夫妻、そして二人のかわいいお子様も。親鸞聖人から連綿と護り伝えてこられたお念仏のみ教えを深く味あわせていただきました。

行事を終え、西本願寺をバスで離れる時、ご門主ご家族が一生懸命手を振ってお見送りくださり、とても感激いたしました。



正法寺仏教壮年会結成五十周年記念大会—慶びの集い晴れやかに—

正法寺住職 眞城 眞信

この度、正法寺仏教壮年会が結成五十周年を迎えました。これまで、会の発展に尽力くださった多くの関係各位の皆様方に、深くお礼申し上げます。

正法寺仏教壮年会は、昭和四十一年に結成され、現在、約七十名の会員で組織されています。浄土真宗のみ教えは、男女の隔てはありませんが、全国的には仏教婦人会の活動の方が活発です。仏教壮年会が、浄土真宗本願寺派として連盟化されたのも、平成二十年のことです。そんな中で、正法寺仏教壮年会は、全国的にも非常に伝統のある仏教壮年会組織だといえるでしょう。

正法寺のご法座において下さった御講師が、ある時、「こちらのお寺は、男性のお参りも多いですねえ」と、こんな感想を漏らされたことがあります。仏教壮年会の五十年にわたる地道な活動が、着実に実を結んでいることの現れでしょう。

男性には、男性特有の人生の悩みがあります。年に二回開催される懇親会では、阿弥陀如来様に手を合わせ、お念仏申す中に、杯を酌み交わし他愛もない話をしながらの非常に和やかな時間が流れていきます。仏教壮年会で繋がった、温かい法友の輪がお寺の敷居を低くしてくれていることでしょう。

結成五十周年を迎え、次世代にも、ますます温かい法友の輪が広がっていくことを切に願ってやみません。お寺は、本当の友をいただく場所でもあります。如来様のお慈悲に抱かれる中で繋がる法友の輪を、これからもどんどん広げてまいりましょう。



▲和やかなお聴聞の時間が流れていきます。



▲ご本山より表彰状が授与されました。



▲記念御講師の紫藤常昭先生

正法寺仏教壮年会会長 泉 専六

正法寺仏教壮年会結成五十周年記念大会を、昨年十一月十二日ご住職様そして皆様様に多大なるお支えをいただき、盛大に開催できましたこと、心から感謝申し上げます。

四十名近い仏协会会员のほか仏教婦人会、芬陀利華の方々の参加のもと、紫藤常昭先生の記念法話、引き続き祝賀会と会員の皆様にとつて、感動のある尊い御法の縁に遇わせていただきました。

また、五十周年の記念事業として、「本堂お詣り用椅子二十脚」、「掃除道具置き場一式」を整備させていただきました。

正法寺仏教壮年会は、昭和四十一年四月十七日に結成され、以来、ご住職様のお導きにより、また、多くの先輩方のご尽力により素晴らしい活動が続いています。結成趣意書には、「我々は一家の中心として、絶えず自省・向上し、我々自身の心の支えを確立すると同時に、次代を担う者たちを正しく導いていくことも我々の責務である。」と熱く語っております。

現在の仏壮は、お寺の夜法座(年六回)を研修会と位置づけ、活動の中心とし、そのほか年末の清掃活動(仏壮の集い)、山口教区、山口南組での研修会への参加、年二回懇親会の開催、お寺行事への参加等の活動を行っています。

ある法話で、「親鸞聖人は、六十歳から多くの書物を書き残されました。この努力のおかげで我々は、真実の教えに会うことができるのです。」と努力の大切さを教わりました。正法寺仏教壮年会が五十周年を迎えることが出来たのも、ご住職様、多くの先輩方々の大変な努力のおかげと、改めてその御恩に感謝しなければと思いません。

今後、六十年、七十年、百周年に向けて、我々自身の心の支えを確立すると同時に、次代を担う者たちを正しく導いていくための活動に努力を続けなければと、改めて思わさせていただきました。



▲祝賀会では、コール芬陀利華が子ども達と一緒に慶びのコーラスを響かせてくれました。



▲仏协会会员による慶びのマジックショーです。



▲仏协会会员によるハーモニカの音色が、胸に染みわたります。



▲久保総代会長から結成当時の思い出を聞かせていただきました。

鳩岡 佐藤 文雄

正法寺仏教壮年会五十周年を迎え、ご住職様をはじめ設立当初から関わってこられた先達の方々にとって感慨深いものが有るとお察し致します。

私がお縁を頂いて仏壮のお手伝いをさせて頂いて始めてから六年余りが経ちました。

御法話を聴聞する度に「しらす門徒」の域を未だに出ていないのではないかと戸惑いを感じていますが、この物質文化隆盛の中で人としての相応しい生き方を求め悩む人の為に仏壮の活動が一助になればと念じております。

前寺内 松本 巖

穏やかなお天気に恵まれた十一月十二日、正法寺仏教壮年会結成五十周年記念大会が開催され、一昨年からお縁を頂いて入会させて頂いたご縁で参加させて頂きました。

福岡教区早良組徳常寺、紫藤常昭講師による記念法話を御聴聞させて頂くと共に、祝賀会ではコール芬陀利華の皆さんによるコーラスや手品等々で楽しく、和やかな雰囲気の中、無事終了いたしました。これも会員の皆様の日頃からの協力があったことと思いました。

後寺内 徳田 正則

若いころ父(当時同心会三代目会長)が、お寺に楽しそうに出かけて行くのを見て居ました。その後薦めも有って仏社会員になりましたが、会費だけの会員でした。実際お寺に参る様になったのは仕事の区切りの関係で、五・六年前からです。その内知り合いも出来、ご講師の話も奉仕活動も楽しく今では仕事の都合がつき次第お寺が一番に成って居ます。これから仏壮の活動がより深まり子や孫に受け継がれて行く事を望みます。

仏壮へのおもい



溝畑 藤岡 正義

昨年は、仏教壮年会五十周年おめでとうございます。半世紀の長きに亘り活動をお支え下さった諸先輩方のご努力に敬服いたします。

私は、ご近所の方のお誘いや若仏壮の定例化もあり参加するようになりました。

壮年会はお祖父ちゃん世代からお父さん世代まで幅広い方々の会ですが、お父さん世代を中心とした若仏壮が活動を始めています。キャンプのバーベキュー手伝いや懇親会等、子供と一緒に、時にはお父さん同士で楽しい一時を過ごしましょう。

稔小野 原田 真照

私は特別仏壮への想いはないが、今まで、三人の身内の死に出会った。この時、年齢によって故人に対する感じ方が変わって来た。故人が心の中に常に居るので、身近かに感じる様になった。また、心の中に居るので、いつでも心で話せる様になった。また、法事を重ねる内にお経がなんとも言えぬ音色に聞こえ、心穏やかにさせてくれた。これも若い時には感じてない事だ。ただ、お経の意味はわからないが、故人を偲ぶ心と故人をつなぐお経とが仏壇に向かわせるのだろう。今年も母の一周忌がある。お経を聞きながら母を偲ぶ事が出来る。楽しみである。

今井 伊藤 公祐

ある日、近所の友達と一緒に魚釣りに行くことにし、祖母に尋ねたところ、今日は親鸞様の月命日だから別の日にするように言われ、命の大切さを教えられたことでした。

仏壮が発足し、昨年五十周年記念大会が行われました。今日の仏壮が無かったら、お念仏の喜びや有難いご法話を聴くこともできなかったと思います。

人生は永いようで短く、残された時間を大切にし、お念仏申す日々を送りたいと思います。



五十周年記念事業

この度、正法寺仏教壮年会より結成五十周年を記念して、本堂の参拝者用の椅子二十脚と掃除道具置き場一式が御報酬されました。



日曜学校 修了式



平成28年度の日曜学校修了式が、3月5日(日)に開かれました。
今年度は、5名の6年生が、日曜学校を修了しました。



御正忌報恩講に展示される正法寺作品展と本願寺作品展に出展してくれた子ども達に賞品が授与されました。みんなとても上手です。本願寺作品展では、1名が入選、2名が優秀賞、そして1名が、最優秀賞を受賞しました。



5名の6年生の内、4人が修了式に出席してくれました。住職から修了証と記念念珠が授与されました。



最後は、6年生を囲んで、お別れピザパーティーです。6年生とお別れするのは、寂しいけど、楽しい一時でした。

今年は、保育園の年中組から6年生まで8年間も一度も休まず日曜学校に通い続けてくれた徳田鈴華ちゃんに、正法寺から特別皆勤賞が授与されました。特別賞は、ご本山本願寺参拝にご家族でご招待です！寺族でさえ、成しえなかった快挙です！おめでとう！！



一年間、一度も休まずに日曜学校に来てくれた平成28年度の皆勤賞は、2名です。2名に図書カードが授与されました。最高の笑顔です！



妹も表彰式に付き添いました(笑)



本願寺作品展書道の部で最優秀賞を受賞し、ご本山にて表彰式に出席いたしました。



寺族アルバム



妹は、入選でした。
来年は、最優秀賞を目指します。



最優秀賞受賞作品です。



◆除夜会・元旦会

毎年、十二月三十一日二十三時より除夜会、翌一月一日零時より元旦会が勤められています。



▲子どもからお年寄りまで、御門徒に関係なく多くの方が、除夜の鐘を撞きにいられます。



▲除夜の鐘の響きの中、仏教婦人会によるお汁粉をいただきながら、一年を振り返ります。



▲元旦会では、新春を祝うお酒と正法寺名物の串刺しが振る舞われます。

◆第八期山口南組連続研修会

平成二十七年五月より平成二十九年三月までの二年間にわたり、第八期山口南組連続研修会が開かれました。山口南組各寺院を会場に、二か月に一度の間隔で、全十二回開催されました。写真は、第十回に正法寺を会場に開催された時の様子です。正法寺からは、次の十二名の方々が、受講修了されました。

- ・伊藤 昇様
- ・徳田亀代子様
- ・原田茂行様
- ・原田世都子様
- ・山根淳次様
- ・山本正次様
- ・伊藤洋子様
- ・長富良子様
- ・原田輝子様
- ・山田 悟様
- ・山根都子様
- ・山本多賀子様

次は、二年後か三年後に計画されることと思えます。浄土真宗のみ教えを基礎から学ぶことのできる研修会です。次回も、たくさんのお受講申し込みをお待ちしております。



◆御報謝

高根上の久保琢生様・富子様ご夫妻から、ご結婚記念として、大鑿台(だいきんだい)が御報謝されました。



◆コール芬陀利華

一緒に仏教讃歌を歌いませんか? 毎月第二・第四土曜日の午後四時から本堂で練習しています。興味のある方は、気軽に見学にお越しください。

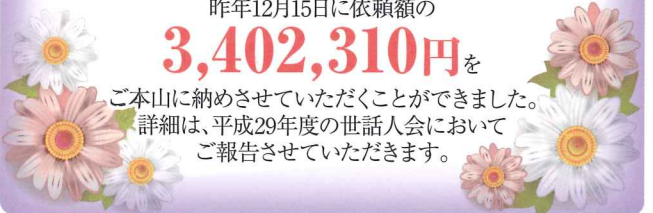


宗門総合振興計画懇志 御礼

昨年度、ご本山本願寺より正法寺にお願いがございました。宗門総合振興計画懇志について、正法寺門信徒の皆様方には、一戸当たり8,000円のご懇志をご依頼申し上げました。昨今の厳しい社会経済状況の中、こころよくご協力賜りましたこと、深くお礼申し上げます。昨年12月15日に依頼額の

3,402,310円を

ご本山に納めさせていただくことができました。詳細は、平成29年度の世話人会においてご報告させていただきます。



編集後記

今回は本山伝灯奉告法要、そして正法寺仏壯五十周年のおめでたい行事の特集となりました。そのよこごびと共に、大切なみ教えを次の世代に伝えていくために、まず一人ひとりがしっかりと受けとめていきましょう。

編集委員

- 久保 實
- 高井 邦子
- 泉 専六
- 富永 志津恵
- 金光 雄一

正法寺ホームページ <http://www.shouhouji.com/>

「山口市正法寺」で検索して下さい。

毎月更新しています。過去の菩提樹もすべて閲覧できます。